

ファッションとアート：麗しき東西交流展



©The Kyoto Costume Institute, photo by Masayuki Hayashi

会期：2017年4月15日(土)～ 6月25日(日)

会場：横浜美術館

主催：横浜美術館（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）

公益財団法人京都服飾文化研究財団

日本経済新聞社

キュレーション：横浜美術館、京都服飾文化研究財団

キュレーター：深井晃子（京都服飾文化研究財団 理事/名誉キュレーター）

沼田英子（横浜美術館 主席学芸員）

内山淳子（横浜美術館 主任学芸員）

周防珠実（京都服飾文化研究財団 キュレーター）

坂本恭子（横浜美術館 学芸員）

長谷川珠緒（横浜美術館 学芸員）

概要

1859（安政6）年の開港以来、横浜は西洋の文化を受け入れ、日本の文化を海外に送り出す玄関口としての役割を担ってきました。本展では、19世紀後半から20世紀前半のファッションと美術（アート）に焦点を当て、横浜を一つの拠点とする東西の文化交流が、人々の生活や美意識にどのような影響を及ぼしたのかを紹介しました。

明治以降の日本では、西洋からもたらされたファッションやライフスタイルが、急速に人々の暮らしに浸透していきました。一方、西洋へは日本の美術品やきものが輸出され、ジャポニズムのブームが起きました。日本と西洋の双方にとって、海の向こうの人々は、美しく珍しい衣服を優雅にまとい、自分たちのものとは異なる工芸品で日々を豊かに彩る、「麗しき」他者であったことでしょう。

横浜では初めての展示となる京都服飾文化研究財団所蔵のドレスや服飾品約100点を中心に、国内外の美術館や個人が所蔵する服飾品、工芸品、絵画、写真など計約200点を「東西文化の交差点 YOKOHAMA」「日本 洋装の受容と広がり」「西洋 ジャポニズムの流行」の3章構成によって展覧。日本と西洋が互いの装いと生活の文化をどのように受容・展開し、新しい美を見出していったかをたどりました。

出展内容

KCI 衣装 48点、錦絵、ファッション・プレート等、約100点

横浜美術館、他館の衣装、工芸品、絵画、写真など 総数約200点